

刊行にあたって

監修者代表 森田義之

ジョルジョ・ヴァザーリの『美術家列伝 *Le vite de' più eccellenti pittori, scultori e architettori*』(一五〇年第二版、一五六八年第二版)は、歴史上最初の公刊を意図した体系的な美術家の伝記集成であり、十四〜十六世紀の約三世紀にわたるイタリアの画家・彫刻家・建築家の生涯と作品を知るうえで、最も基本的で重要な史料の価値をもつ古典的な美術文献である。

『美術家列伝』(第二版)は、総序、技法論等に続いて、第一部(一三〇〇年代)三十一篇、第二部(一四〇〇年代)五十四篇、第三部(一五〇〇年代)八十一篇の計百七十一篇の伝記および関連する諸論を含んでいるが、今回の日本語全訳の企画では、全体を六巻の構成とし、各伝記ごとに、解説と詳細な註、可能なかぎり多数の写真図版を付して、欧米各国の翻訳版にも見られない情報量にとんだ邦訳決定版を期した。

本書の刊行によって、イタリア・ルネサンス美術への理解と関心が、美術や美術史に関心をもつ人の枠をこえて、イタリアの歴史と文化に関心をいだく多くの読者へひろがることを期待してやまない。

本書の特色

■ルネサンス美術史の基本文献、待望の全文翻訳

ルネサンス美術史の基本文献であるジョルジョ・ヴァザーリの『美術家列伝 *Le vite de' più eccellenti pittori, scultori e architettori*』は、著名な芸術家の伝記については邦訳が出版されていたものの、その全訳は日本で一度も刊行されたことがない。西洋美術史における不朽の歴史的名著、ヴァザーリが 1550 年の第 1 版を大幅に書き改めて 1568 年刊行した第 2 版を、本邦で初めて完全翻訳する。

■美術史研究者による、最新の知見を盛り込んだ注解

美術史研究の第一線で活躍する研究者による新訳に加え、各伝記に、美術家の歴史的意義や第 1 版との異同を説明する解説と詳細な註を収録。イタリアのルネサンス美術史の研究状況を知るうえでも助けとなる情報を掲載する。

■本文に即した、数多くの図版

ジョット、レオナルド、ラファエッロ、ミケランジェロ、ティツィアーノ……だけではない、ジョルジョ・ヴァザーリの語るイタリア・ルネサンスを彩った美術家たちの作品を、可能な限り図版として付載。イタリア・ルネサンス美術の全体像を視覚的にも追体験する。

第1巻

献辞

総序

アレツツォの画家ジョルジョ・ヴァザーリ殿による、三つの造形芸術、すなわち建築、彫刻、絵画への序論

第一部 序論

チマブーエ

アルノルフォ・ディ・カンビオ(アルノルフォ・ディ・ラーボ)
ニコラ・ピサーノとジョヴァンニ・ピサーノ
アンドレア・ターフィ
ガッド・ガッディ
マルガリート(マルガリトーネ)
ジョット
アゴステイノ(ディ・ジョヴァンニとアーニョロ・ディ・ヴェントウーラ)
ステルフィノ(フィオレンティーノ)とウゴリーノ(ディ・ネーリオ)
ピエトロ・ロレンツェッティ(ピエトロ・ラウラーティ)

アンドレア・ピサーノ
ブオナミーコ・ブッフアルマッコ
アンブロジーノ・ロレンツェッティ
ピエトロ・カヴァリーニ
シモーネ・マルティーニ
タッデオ・ガッディ
アンドレア・オルカーニヤ
ジョッティーン(トーマツ・ディ・ステイファン)
ジョヴァンニ・ダル・ボンテ
アーニョロ・ガッディ
ベルナ(バルナ・ダ・シエナ)
ドゥッチョ

アントニオ・ヴェネツィアーノ
ヤコボ・デル・カゼンティーノ
スピネッロ・アレティーノ
ゲラルド・スタルニナ
リッポ・フィオレンティーノ
ロレンツォ・モナコ
タッデオ・ディ・バルトロ(タッデオ・バルトリ)
ロレンツォ・ディ・ピッツ

第2巻

第二部 序論

ヤコボ・デッラ・ケルチャ

ニッコロ・アレティーノ

デッロ
ナンニ・ディ・バンコ
ルカ・デッラ・ロツピア
パオロ・ウッチェッロ
ロレンツォ・ギベルティ
マツリーノ
パツリ・スピネッリ
マザッチョ
フリッポ・ブルネッレスキ
ドナテッロ
ミケロツツォ・ディ・バルトロメオ
アントニオ・フィラレーテとドナテッロ

の弟、シモーネ
ジュリアーノ・ダ・マイアーノ
ピエロ・デッラ・フランチェスカ
フラ・アンジェリコ(フラ・ジョヴァンニ・ダ・フィエーソレ)
レオン・バッティスタ・アルベルティ
ラッサロ・ウァザリ
アントネッロ・ダ・メッシーナ
アレッシン・バルドヴィネッティ
バルトロメオ・ペッラーノ(ヴェッラーノ・ダ・バドヴァ)
フラ・フィリッポ・リッピ
パオロ・ロマーノとマエストロ・ミノー及びキメンティ・カミーチャとバッチョ・ポントッリ

アンドレア・デル・カスターニョとドメニコ・ヴェネツィアーノ
ジェンティーレ・ダ・ファブリアーノと

本書の構成

ヴィットーレ・ピサネッロ
ペゼッロとフランチェスコ・ペゼッリーノ

ベノツォ・ゴッツオリ
フランチェスコ・ディ・ジョルジョとヴェッキエッタ
ガラツソ・ガラッシ

アントニオ・ロッゼッリーノとベルナルド・ロッゼッリーノ
デジデリオ・ダ・セッティニヤーノ
ミノー・ダ・フィエーソレ
ロレンツォ・コスタ
エルコレ・デ・ロベルティ
ヤコボ・ベッリーニ、ジョヴァンニ・ベッリーニとジェンティーレ・ベッリーニ
コジモ・ロッゼッリ
チェツカ
バルトロメオ・デッラ・ガッタ
ゲラルド
ドメニコ・ギルランダイオ

アントニオ・デル・ポツライウオーロとピエロ・デル・ポツライウオーロ
サンドロ・ボツティチェッリ
ベネデット・ダ・マイアーノ
アンドレア・デル・ウエロッキオ
アンドレア・マンテーニヤ
フリッピノ・リッピ
ベルナルディーノ・ピントウリッキオ
フランチェスコ・フランチャ
ピエトロ・ペルジノー
ヴィットーレ・カルパッチョ、他のヴェネツィアとロンバルディア地方の美術家たち
ヤコボ・トルニ、通称インダコ
ルカ・シニョレッリ

第3巻

第三部 序論

レオナルド・ダ・ヴィンチ

ジョルジョ・ネ・ダ・カステルフランコ
アントニオ・ダ・コレツジョ
ピエロ・ディ・コジモ
ブラマンテ
フラ・バルトロメオ
マリオット・アルベルティネッリ
ラファエッリーノ・デル・ガルボ
ピエトロ・トリジャーノ
ジュリアーノ・ダ・サンガッロとアントニオ・ダ・サンガッロ
ラファエッロ・ダ・ウルビーノ
グリエルモ・ダ・マルチッラ
クローナカ
ドメニコ・プリーゴ

アンドレア・ダ・フィエーソレと他のフィエーソレの美術家たち
ヴィンチェンツォ・タマーニエティモテオ・ヴィーティ
アンドレア・ダル・モンテ・サンソヴィーノ
ベネデット・ダ・ロヴェッツァーノ
バッチョ・ダ・モンテルポとラファエッロ・ダ・モンテルポ
ロレンツォ・ディ・クレーディ
ロレンツェットとボツカッチーノ
バルダッサレ・ペルツツィ
ジョヴァンフランチェスコ(ペンニコとペッレグリーノ・ダ・モテナ
アンドレア・デル・サルトル
プロベルツィア・デ・ロツシ
アルフォンソ・ロンバルディ、ミケランジェロ・ダ・シエナ、ジョーラモ・サンタクローチェ、ドッソとバティスタ(ドッシ)

ジョヴァンニ・アントニオ・ソリアーニ
ホルデノーネと他のフリウリ地方の画家たち
ジョヴァンニ・アントニオ・ソリアーニ
ジョーラモ・ダ・トレヴィーソ
ポリドーロ・ダ・カラヴァッジョとマトウリーノ・フィオレンティーノ
ロツソ・フィオレンティーノ

第4巻

ヤコボ・バルマ(バルマ・イル・ウエッキオ)とロレンツォ・ロツト
フラジヨコンド、リベラーレ・ダ・ウエローナ、その他ヴェローナの美術家たち
フランチェスコ・グラナッチ
バッチョ・ダーニョロ
ヴァレリーオ・ヴィチエンティーノ、ジョヴァンニ・ダ・カステル・ポロネーゼ、マッテオ・ダル・ナツサロ・ウエロネーゼ、その他カメオや宝飾を手がける優れた彫工
マルカントニオ・ライモンディとその他の版画家たち
アントニオ・ダ・サンガッロ・イル・ジョーヴァネ

ジュリオ・ロマーノ
セバステイアーノ・デル・ピオンボ
ペリーノ・デル・ヴァーガ
ドメニコ・ベッカファミ
ジョヴァンニ・アントニオ・ラッポリ
ニッコロ・ソツジ
トリポロ(ニッコロ・デ・ペリーコリ)
ピエリーノ・ダ・ヴィンチ
バッチョ・バンディネッリ

第5巻

ジュリアーノ・ブジャルディーニ

ドチエーノ
ポントルモ
シモーネ・モスカ
ジョーラモ・ジェンガとバルトロメオ・ジェンガ、およびジョヴァンニ・バッチョ・サン・マリノ
ミケーレ・サンミケリー
ソドマ
アリストーティレ・ダ・サンガッロ
ガロファロ(ベンヴェヌート・ガロファロ)
ロとジョーラモ・ダ・カルビ、他のロンバルディア地方の美術家たち
リドルフォ・ギルランダイオ、ダヴィド・ギルランダイオとベネデット・ギルランダイオ

ジョヴァンニ・ダ・ウーディネ
バツティスタ・フランコ
ジョヴァンフランチェスコ・ルスティチ
ジョヴァンニ・アンジェロ・モントルソリ
フランチェスコ・サルヴィアーティ
ダニエッロ(ダニエーレ)・リッチャレリ・ダ・ヴォルテッラ
タッデオ・ズッカリ

第6巻

ミケランジェロ・ブオナローティ
フランチェスコ・プリマティッチョ
ティツィアーノ・ヴェチエリオ
ヤコボ・サンソヴィーノ
レオーネ・レオーニ
ジュリオ・クローヴィオ
さまざまないタリアの美術家たち
さまざまないランドルの美術家たち
美術アカデミー会員たち、ブロンズイーノ
フランチェスコ・デ・メティチの婚姻祝賀
装飾
ジョルジョ・ヴァザーリ自伝

彼こそ、はるか後になって美術の学あるいは美術史学と呼ばれるようになった領域へと立ち入った最初の人であった。

ウード・クルターマン『美術史学の歴史』